

## ハードディスク事業の行方 ～ハードディスクドライブはどこまで高密度化するのか～

片桐 広貴  
(Hiroataka KATAGIRI)

2月17日、富士通(6702)は東芝(6502)にハードディスクドライブ(HDD)事業を譲渡することで基本合意したと発表した。富士通はHDD用ヘッド及びメディア事業を除くHDD事業を東芝に譲渡する。従来よりハードディスクドライブに対しては、情報記録の高密度化が求められているが、従来技術の延長での高密度化には限界が近づいてきている。そのため、近年では高密度記録・再生ヘッドに関する技術開発に加え、パターンドメディアに関する技術開発が活性化している。ここでは、パターンドメディアに関する技術開発の状況を分析した。

パターンドメディアに関連する特許を複数用い、これらを元にX LUSを用いて概念検索を行い、パターンドメディアに関連すると考えられる2008年に公開された特許を300件ほど抽出した。パターンドメディアに関連する主要なプレイヤーとしては、前出の富士通、東芝の他、日立製作所(6501)、TDK(6762)、富士フィルム(4901)、キヤノン(7751)、パナソニック(6752)、昭和電工(4004)、富士電機アドバンステクノロジー(富士電機(6504)の関連会社)等が挙げられる。いずれの会社も、現状の特許出願を見る限り媒体の製造に関する技術開発を行っている。技術開発が行われる場合には機能を実現するための要素技術の開発(パターンドメディアの場合、媒体の製造方法等)から始まり、実用化に必要なシステム技術開発(媒体を利用するためのヘッド、読み取りアルゴリズム、周辺回路設計等)が進んでいく。各社の技術開発は媒体製造に関する技術開発が主体であることから、現時点は要素技術の開発段階であり、今後、実用化に向けた技術開発が進んでいくものと思われる。

---

### <お問い合わせ先>

株式会社 創知 TEL(営業部):03-6231-7908 メール:customer@so-ti.com

\*弊社ではXLUSのASPサービスおよび調査業務を行っております。ご関心のある方は上記連絡先までご連絡ください。

\*本レポートに記載した内容および図表の全ての著作権は(株)創知が保有します。無断転載は禁止いたします。